朝日 俳壇 歌壇

第41回 朝日歌壇賞

2024年の入選歌から選者4人が1首ずつ選びました。賞状と記念品が受賞者に贈られます。朝日俳壇賞は来週掲載します。

高野公彦　選

受賞より核廃絶を待ち望む被爆者の顔深き皺よる
（つくば市）山瀬佳代子

炊事をしながら思い出した。田中熙巳さんが、核をめぐる状況は今も厳しいと語ったこと。顔には長い年月が刻まれていたこと。核廃絶への願いを受けとめ、詠んだのだった。

〈評〉日本被団協の人々が待ち望むのはノーベル平和賞でなく、核兵器無き世界。

永田和宏　選

エサ用のメダカは一ぴき十五円食べられる日を知らずに泳ぐ
（奈良市）山添　聡介

ぼくは生き物をかっていませんが、いつか犬やインコをかうのが夢です。ペットショップでエサ用のメダカが売られていてびっくりしました。エサになるって決めないで。

〈評〉エサ用のメダカがいるなんてと驚く。それはそのまま命の大切さへの気づき。

馬場あき子　選

帰国して笑顔弾ける選手団こんな世代を戦地に送りし
（塩尻市）原　田鶴子

まぶしいばかりのパリ五輪選手団の帰国が、丁度、終戦の日前後だった事もあり、目の前にして、戦地に送られたのはこういう人達だったんだと、改めて衝きつけられました。

〈評〉オリンピックを終えて帰国の選手たち。思えばこの世代を戦場に送ったのだ。

佐佐木幸綱　選

流鏑馬の一瞬の間に駆け抜けて尻尾ばかりがスマホに残る
（宝塚市）寺本　節子

ニュースでは見ますが実際に見たのは初めてです。見物席が最前列だったので張り切って撮ったのですが失敗作ばかり。蹄の音高く近づくや猛スピードで走り去りました。

〈評〉スピード感とユーモアで、はなやかな流鏑馬の行事を表現して見事です。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に2作品まで）。QRコードから。

佐佐木幸綱　選

認知症の人の発するありがとうヘルパー吾の魂を揺さぶる
（横浜市）山本美智子

ケータイの音に怒りて高座降り再び上がる師匠への拍手
（羽曳野市）玉田　一成

ケアマネの更新研修それぞれが僅かな合間に仕事の電話
（横浜市）桑田よし子

「道草をするな」と今日も声かけて黄色い旗のおじさんとなる
（厚木市）北村　純一

玄関はあの中央分離帯のあたり上書きされた実家を探す
（土浦市）原田　啓子

四匹の猫が並んで出迎えてくれる「癒し課」のある出版社
（東京都）村上ちえ子

天井を列車が走る居酒屋で過去を肴にコップ酒呑む
（西条市）村上　敏之

桜咲く木にもおとらぬ光もて樹氷は朝のくれなゐに立つ
（札幌市）木下　澄子

青空に金魚のような赤いヘリ黄色の銀杏を飛び越え現場へ
（東京都）木村　美夏

☆子の図鑑虫干しすれば三十年閉じし頁が深き息する
（長崎県）稲垣　妙子

【評】第一首、作者は認知症の人を介護するヘルパー。久々に聞いた「ありがとう」なのだろう。第二首、わざわざ高座をおりて客席に怒鳴り込んだ落語家。結句がその場の空気を表現して、うまい。第三首、ケアマネはみな忙しいのだ。

高野公彦　選

人はみな地球に家を借りていることを知りけり三十年前
（豊中市）福井　敏光

青春も白秋も経て玄冬期のいま冬至湯にしずめる身体
（平塚市）青木　良子

将来の夢と希望を問はれしに「大人になれたら」といふガザの子
（新潟市）寺尾　正人

十割と二八の差異を楽しみぬ松江の友の最贔のそば屋
（福山市）倉田ひろみ

親友と食べる焼き鳥部位ぜんぶ食べ尽くしても話し足りない
（富山市）松田　わこ

政策を歪める企業の献金を総理は「表現の自由」と言えり
（観音寺市）篠原　俊則

ハーメルンの笛吹き男はいないけどSNSで来る闇バイト
（茨木市）瀬川　幸子

被害者も加害者も人　人類が自滅する日の核4千発
（安中市）鬼形　輝雄

外国の青年に席譲られる箱根ケーブル嬉しく寂し
（佐渡市）若林としみ

UFOのごとくライトを点滅し暗闇を行く今朝の除雪車
（五所川原市）戸沢大二郎

【評】1首目、作者は1995年の阪神淡路大震災を経験したのだろう。「地球に家を借りている」がリアルで鋭い。2首目、人生の「青春→朱夏→白秋→玄冬」という推移を思いつつ冬至の湯を楽しむ。3首目、大人になれることが先ず第一。

永田和宏　選

冬の夜読み返しいる没年の書かれておらぬせなけいこの本
（和泉市）星田　美紀

親よりも先に逝くなが口癖の父との約束今朝果たされぬ
（大津市）小見　伸雄

☆冬晴れの空を見上ぐる首の骨キリン七本我も七本
（さいたま市）齋藤　紀子

代数を始める前にまずココア点P点Q動かんといて
（奈良市）山添　葵

澱橋通の家ゆ澱橋渡りて通ひし若き亡母はも
（仙台市）二瓶　真

ミリバールが気圧の単位でありしころラジオで聴いてた気象概況
（倉敷市）中谷　眞理

小上がりの一輪挿に寒の菊酒も肴も亭主に任せ
（東京都）松木　長勝

☆結核の枕辺に集ふ者らゐて子規を子規たらしめし明治よ
（司児市）前川　泰信

哲学の道から法然院までを故人を語りて友と並び行く
（高槻市）小野まなび

お願ひと言はれましても困ります私はただの郵便ポスト
（津市）森島　雪

【評】一、二首目、せなけいこと父が亡くなったことを詠うが、共に直接それを書かないでいる所が見どころ。齋藤さん、キリンも人も首の骨は七本。知識がうまく生かされた。葵ちゃん、「点P点Q動かんといて」がいい。これ幾何じゃない？

馬場あき子　選

☆冬晴れの空を見上ぐる首の骨キリン七本我も七本
（さいたま市）齋藤　紀子

☆結核の枕辺に集ふ者らゐて子規を子規たらしめし明治よ
（司児市）前川　泰信

寝返りをマスターせんと緑児は小さき雄たけびもらしクリアす
（東京都）舟山田美子

音だけで一万人が動き出す日本の不思議ラジオ体操
（菊池市）神谷紀美子

☆子の図鑑虫干しすれば三十年閉じし頁が深き息する
（長崎県）稲垣　妙子

干し柿が音符のやうに吊るされたあなたの部屋があの時あつた
（茨木市）瀬川　幸子

姿勢良くワルツのステップ繰り返す老爺がひとり寒夜の公園
（東京都）小林　容子

谷底に将門寄進の五重の塔数百年を経しも健在
（鶴岡市）大沼三三枝

村々が他国の地名に変わるとの記事読みながら身に染む寒さ
（石川県）瀧上　裕幸

久しぶり雨戸開ければ外は雪機音消えた故郷の街
（京都府）太田　瓦

【評】第一首は首の長いキリンと人間の首の骨の数の同一。ふしぎ、でも、そうなのだ。楽しい発見。第二首は近代の人間関係。中でも師弟の心の絆の堅い結びつきを嘆嘆の思いで見つめている。第三首の小さき雄たけび、すばらしい。